

2020 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [宮城県富谷高等学校] 担当教諭名 [八島 美央] (ECC 国際部 2名・有志 6名)
 相手国・地域 [ベルギー]
 海外学校名 [GO! Busleyden Atheneum Campus Pitzemburg]
 担当教諭名 [Eef Haezebrouck / Katrien Petit / Steven Van der Taelen]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教科	単 元 名	時間数
		部活動	ECC 国際部

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	プラスチックの津波と COVID-19, そして生命の再生
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	“COVID-19により、プラスチックの津波が世界をさらに脅かしている。生命の再生・誕生を始めるためには、国際的な協力が必要である” ということを世界に発信したいと考えた。プラスチックなどによる汚染された現在の世界の状況と、将来 (COVID-19 後) の世界に「生命の再生」のイメージを併せて描くことで、そのメッセージを持たせた。 3, 6, 7, 11, 12, 13, 14, 15 の SDGs を達成するためには、パートナーシップ (17) と質の高い教育 (4) の必要性



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
・今年度は、コロナ禍の休校明けの6月から学校がスタートとし、かつ部活動の実施の仕方にも制限があった。しかも3年生部員が引退した9月からは、2年生2名だけで進めることになった。しかし「限られた条件下で工夫する」という発想をすることにし、生徒と工夫しながら取り組めたことは成果であった。	・本校ではこのプロジェクトに部活動で参加しているが、今いる2名も来年度3年次の9月で部活動を引退する。プロジェクトに申し込みをする年度末から4月初めは、新入生の部員数が未定かつ0名かもしれない段階で申し込みをしなければならないという点が本校の課題である。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<p>・昨年度の SDGs をテーマとしたこのプロジェクトの参加以降は、取り組む目的が単なる異文化交流と異文化理解を目的とするものではない、ということを生徒に実感してもらっていた。その上でスタートした今年度であったが、コロナ禍故に学校生活に制約があったため、実施や続行が難しいのではないかと悲観的になる場面もあった。そんな中、相手国の生徒達がロックダウン下での生活についてビデオメッセージで教えてくれた。これにより、どの地域もどの国の生徒も同じ悩みや不安を持っているのだということシンプルに理解をすることができたようであった。その結果、ポジティブな活動に移れるようになっていったことは大きな意識の変化であると思う。</p>	<p>・今回で6回目の参加であるが、相手国の反応の頻度や熱量の違いがあったとしても、想いを共有していく中で、毎回新しい発見を見つけたり感じられたりするようになった点が意識の変化であると感じる。</p> <p>・今回は、相手国の先生とはプロジェクトそのもののやり取りだけでなく、その時にタイムリーな問題や話題(持続可能な開発のための国連海洋科学の10年のニュース、日本の女性の自殺者の増加問題、2月に発生した東日本の大地震、3月の世界賛辞の日、東日本大震災など)について、お互いの考えを述べ合ったり、相手を思いやるメッセージを送ったりすることができた。このことも、私自身の意識の変化につながったと感じている。</p>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
<p>出会い 自己紹介</p>	<p>6月 7月</p>	<p>・本校のメンバー紹介(①メンバー全員の集合写真, ②個人写真, ③セルフビデオ)を作成して送った。</p> <p>・相手国(ベルギー)について、①経済, ②学校教育, ③伝統文化, ④言語, ⑤歴史, ⑥自然, ⑦日本との貿易関係, などの観点で調べ学習をし、その内容を本校のメンバー同士でプレゼンする形で共有した。</p>	<p>・コロナ禍で、プロジェクトの実施が難航するのではと心配していた中で、相手国の生徒達がロックダウン下での生活についてビデオメッセージで教えてくれた。「どこも同じなんだね～」と話す姿は、自分たちの状況をシンプルに理解し、ポジティブな活動に移れるようになっていった瞬間であったと思う。</p>	<p>部活動 10</p>
<p>共有 テーマ学習</p>	<p>8月 ～ 11月</p>	<p>・相手国について調べた学習の内容を、パワーポイントや手書きのレポートで相手国に知らせた。</p> <p>・パートナー校と『プラスチック問題』『COVID-19 の影響と生命の再生』をテーマとすることに決めた。</p> <p>・テーマを深めるためには、どのような研究をすべきかを考えた。</p> <p>・①「コロナ禍の本校の1日」、②「COVID-19 後の世界はどのように変わっていくのか、どう変えたいか」、③「コロナ禍のプラスチック問題」などについて研究をし、パワーポイントにまとめて相手国と共有した。</p> <p>・「COVID-19 と富谷高校生の生活について」757人の生徒にアンケート調査を実施し、結果をパワーポイントにまとめて相手国と共有した。</p>	<p>・相手国について、知らなかったことを知ったり、知ったことでより興味を持ち始めたりしていく姿がみられた。</p> <p>・相手国との共有でテーマが決まったが、9月に3年生が引退して部員が2年生2名となり、「プラスチックとコロナなんて、どんな風に絵にすればいいの～？」と大騒ぎをしていた。事務局にいただいたアドバイスをもとに研究を始めていくうちに、「コロナが世の中にこんな影響を与えているなんて知らなかった！」という気づきの反応であった。</p> <p>・研究や全校生徒のアンケート集計をたった2人でしたことは大変だったはずであるが、「楽しい」という言葉がでてきたことは、とても意外であり、頼もしく思った。</p>	<p>部活動 14</p>

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
融合 メッセージ作成	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> ・相手国と、「プラスチックなどによる汚染された現在の世界の状況」と、「将来(COVID-19 後)の世界に『生命の再生』のイメージ」を併せて描くことを共有した。 ・壁画の区切り方や大まかなデザインについて、相手国に提案をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的なテーマや構図を決める上で、十分な時間を取った。そんな中で、「どうしてもクジラを描きたい！」「お腹を透明にして、中にプラスチックゴミを描きたい！」など、これまでの研究の中でどうしても描きたいものに対する強い思いがでてきていた。 	部活動 10
創造 壁画制作	12月 ～ 3月	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は、「プラスチックなどによる汚染された現在の世界の状況」を、相手国が「将来(COVID-19 後)の世界に『生命の再生』のイメージ」描くことを共有した。 ・クジラのおなか部分を輪郭だけ描いて透明に見えるようにしつつ、お腹の中にプラスチックゴミを描くことで、また、動物の死骸や枯れた木などを描くことで、世界の状況を表現した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査前の部活停止期間と、定期考査の期間があったこと、また、壁画完成締め切りが例年よりも早かったことなど、時間が無い状況であった。しかし、「放課後は何時まで活動して良いですか？」「テスト休み期間も学校に描きに来て良いですか？」という声が出た。 ・一部の作業を有志生徒6名が手伝ってくれたが、8割の作業は2名の部員で時間をかけて仕上げてくれた。 	部活動 10
評価 振り返り 自己評価	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトに参加していない本校生徒や教職員、来校者に見てもらえるように、生徒昇降口付近に壁画を展示した。(予定) ・全校生徒向けのニュースレターで、アートマイルのこれまでの取り組みを紹介した。(予定) ・プロジェクト参加生徒に、アンケートを実施した。自己評価や成果、今後の課題を共有した。(予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・完成作品が届き次第実施予定 	部活動 2 (予定)

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	2	<ul style="list-style-type: none"> ・ベルギーという国や文化や社会について、インターネットなどを調べることで知る機会を持てた。日本が相手の生徒達からどのように見られているのかを知る機会を持てれば良かったと思う。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・COVID-19 とプラスチック問題をテーマにしていく中で、これらの問題が結びつくはずはない、という第一印象であったようだが、研究を進めていく中で、世の中の事象を俯瞰的に見たり、客観的に捉えたりするという機会を、少なからず持つことができていたと思う。
主体的に考え行動する力	4	<ul style="list-style-type: none"> ・プラスチック、そして COVID-19 という世界的な問題について、自分たちの抱える問題として十分に捉えることができていたと思う。 ・置かれている状況下で出来る限りのことに取り組めたと思う。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・相手国においても活動に制限がある中で、お互いができる限りのメッセージや活動の様子を伝え合うことができたと思う。 ・担当する教員同士も、お互いを思いやるメッセージのやり取りができたように思う。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに沿った研究をどのような絵で表し、メッセージを込めるのかという点について、丁寧に意見を出し合う姿が見られた。 ・自分たちが研究したことを、テーマに沿ったものへと表すことが出来たと思う。